委員会提出議案第１号

議会評価意見書の提出について

上記の議案を，小松島市議会会議規則第１４条の規定により別紙のとおり提出します。

令和４年９月２９日

小松島市議会議長　　米　﨑　賢　治　　殿

提出者　　予算決算常任委員会
委員長　　佐　藤　光太郎

令和３年度事務事業

議会評価意見書

小松島市議会

議会評価意見書①

事　業　名	1-7　小松島市ふるさと応援寄附金事業 （ふるさと納税）
議 会 評 価	改善・効率化し継続

【評価説明】

自主財源の確保と地場産品の PR が果たせている事業であり、厳しい財政状況を補う意味でも重要な事業である。

返礼品目が 104 品目から 151 品目に増加したことは評価できるが、その反面、事業実績は減少している。

実績向上するためには、ユーザーニーズを的確に把握など、詳細なマーケティング、マーケットリサーチが必要である。

他方において、プロモーション戦略も必要で、ふるさと納税ポータルサイト数を増やし、上位ニュース（ファーストビュー）となるよう努めるべきである。

議会評価意見書②

事　業　名	1-9　　移住定住促進事業
議 会 評 価	改善・効率化し継続

【評価説明】

移住定住を促進し、人口減少に歯止めをかける事業であるが、まだまだ移住には、繋がっていないことから努力を怠ることはできない。

移住希望者が、求めるものを提供し、市としても求める人材(ターゲット)を定めて施策を展開し、取り組む必要がある。

また、最初から移住を求めることは、ハードルが高いことから、体験移住を企画し、農業など各種研修、就職活動を図ってはどうか。

さらに、2 拠点化居住の促進などの施策についても取り組む必要がある。また、コロナ禍によりオンラインが求められる近年、Zoom や SNS を積極的に活用していくべきである。

議会評価意見書③

事　業　名	3-21　　生活困窮者家計改善支援事業
議 会 評 価	改善・効率化し継続

【評価説明】

生活困窮者は、個々様々な事案を抱えており、自立を促すことは大変難しいと思われる。自分の家の経済状況を第三者に知られたくないと考える人が多いため、事業推進には、目的の理解と信頼関係の醸成が必要である。

その上で、効果的な支援を行うためには、それぞれの専門的知見をもって「包括的」な支援を行うため関係機関との連携を強化した取組が求められる。

生活困窮者が、生活設計に困難を感じた時に身近な相談先として自立支援センターが、あることを周知することが望まれる。

費用対効果をみると効果があまり出ていないため、事業手法等についても改善が必要である。

議会評価意見書④

事　業　名	3-91　　母子健康包括支援センター運営等事業
議 会 評 価	現状のまま継続

【評価説明】

安心して子どもを生み育てる支援を行う事業は、産前・産後の時期に応じた適切な指導ケア、また、その後の子育て支援は、大変有意義であることから継続的な取組が望まれる。

コロナ禍のもとで孤独化も進み、不安を感じる妊産婦が増加している。

また、子育てしやすいまち「こまつしま」と若い世代に認識してもらうためにも欠かせない事業である。

今後についても専門職の確保、個別事案に対し包括的な切れ目のない支援ができるように、関係機関と連携しながら、母子健康包括支援センター「おひさま」を中心に必要な支援を行っていくべきである。

議会評価意見書⑤

事　業　名	3-92　　骨髄等移植ドナー助成事業
議 会 評 価	改善・効率化し継続

【評価説明】

開始されたばかりの事業であるが、骨髄等の移植を待ち望む患者は多く、社会的意義は大きい。

その反面、周知不足は明白で、県全体を俯瞰しても実績は乏しい。

今後、実績を伸ばすために、助成金の増額、関係機関やボランティア組織等の連携強化を図り、より一層の骨髄バンクドナー登録への啓発周知が必要である。

議会評価意見書⑥

事　業　名	4-31　　観光・イベント振興事業
議 会 評 価	改善・効率化し継続

【評価説明】

アフターコロナを見据え、各事業を見直し、市民が誇れるインパクトのあるイベントを創る必要がある。さらに、新たな体験型観光の創出を積極的に行うべきである。

また、近隣市町村在住者のリピーターを増やし、観光となる拠点づくりの推進に取組が求められる。

議会評価意見書⑦

事　業　名	5-8　　準用河川維持管理事業
議 会 評 価	改善・効率化し継続

【評価説明】

頻繁に発生する豪雨災害などに備えるためにも、準用河川の維持管理は、本市にとって必須事業である。

しかしながら、具体的な実施計画が見えない。今後は計画的な事業展開が望まれる。

緊急浚渫事業債を積極的に活用し、より多く浚渫事業を進めるべきである。

議会評価意見書⑧

事　業　名	5-13　　排水路維持管理事業
議 会 評 価	改善・効率化し継続

【評価説明】

頻繁に発生する豪雨災害に強い都市づくり推進のため、排水機能の整備・維持は、浸水被害の防止・軽減に必要不可欠なものである。

しかし現状は、十分な調査計画がなされていない。

排水路浚渫の迅速な対応、老朽化した水路の計画的な修繕が急がれる。

また、農業用水路の草木の繁茂、堆積土砂の除去について、定期的に調査して管理する必要がある。

議会評価意見書⑨

事　業　名	5-21　　木造住宅耐震リフォーム事業
議 会 評 価	改善・効率化し継続

【評価説明】

「安全・安心なまちづくり」の観点から南海トラフ巨大地震などの災害に備えた木造住宅の耐震改修を促進していくべきである。

そして耐震相談及び耐震診断時に奨励リフォームの補助制度の積極的な活用ができておらず、他の助成とも組み合わせたものを考えていかなければならない。

さらには、市民へ本事業の周知が浸透しておらず、被害を減少させるため、今後も継続して事業を推進する必要がある。

議会評価意見書⑩

事　業　名	6-9　　部活動指導員配置促進事業
議 会 評 価	改善・効率化し継続

【評価説明】

教員の働き方改革、超過勤務等の解消、そして専門的技術を持った民間人の指導により、子どもたちの能力向上につながる効果の高い事業である。

本事業に加え地域部活動指導員の配置も行うことから、未導入である部活動への適切な配置計画をもって、積極的に推し進めるべきである。

将来的には、小学校におけるスポーツ活動においても事業制度導入が図れるよう検討していくことも必要である。

議会評価意見書⑪

事　業　名	6-48　　小松島ハーフマラソン（仮称）大会開催事業
議 会 評 価	改善・効率化し継続

【評価説明】

本大会を通じて、健康増進や体力・技術の向上、地域・世代を超えた交流促進によるにぎわい創出を目的とした事業である。

また、県下だけでなく、全国からも多くの参加希望者がいることから、本市の PR 効果にも寄与している。

開催にあたって、課題として、コロナ感染症対策の徹底を図り、運営体制強化、ボランティアの人員確保、地域住民等の協力は、不可欠であり、事業推進計画を入念にしていかなければならない。

財源確保においては、クラウドファンディング等、市補助金に頼らない方法も考えながら、安定的な財源確保に努め、事業の継続実施が図れるよう進めていくべきである。

議会評価意見書⑫

事　業　名	6-61　　生涯学習センター市立図書館運営事業
議 会 評 価	拡充

【評価説明】

小松島本港地区活性化の一翼を担う施設として、ICT、デジタル化の加速にも対応し、利用者の増加に向けた取組をしていかなければならない。

その方法として、利用を呼び掛ける広報の充実はもとより、新しい取組としてカフェの併設など市民の憩いの場としても利用できるような工夫も必要である。

今後は、指定管理者制度導入なども視野に入れた本港地区全体のビジョン構築も進めていかなければならない。